

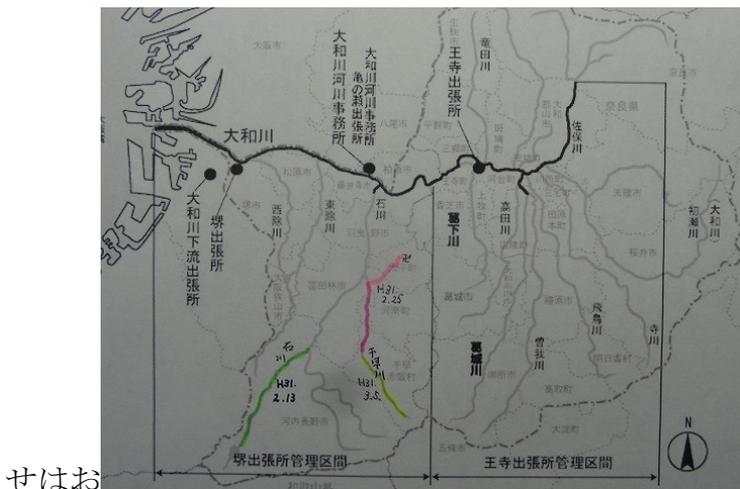
日本あちこち河川遡行記（第234回）

大阪2-1-1. 千早川（その2）平成31年3月5日（火）晴

千早川の残りの区間の遡行に出かける。前回の折り返し点の役場前の標高が130mに対し、最上流部のロープウェイ前は680mとその標高差は550mと遡行すれば登山並みになる。これは無茶苦茶でござります。バスでロープウェイ前までに上がり降りてくることにする。経路は近鉄利用か南海利用かの二つがある。比較した表が次の通りである。

	南海利用		近鉄利用	
	新大阪			
新大阪 ～金剛 ロープ ウェイ 間運賃 比較	大阪メトロ	280	大阪メトロ	280
	難波		天王寺（阿部野橋）	
	南海高野線	550	近鉄南大阪線・ 長野線	440
	河内長野		富田林	
	南海バス	520	金剛バス	590
金剛山ロープウェイ前				
	合計	1,350	>	1,310
	梅田（大阪） からなら	1,300	<	1,310

有意差が無いので帰りは近鉄利用になるので南海利用とする。前回乗った10時2分発の急行に乗り河内長野に向かう。隣りホームのガラガラの特急にはユー達とお坊さんが乗っている。真っ赤な車体に黒づくめの坊さんの組み合わせ



せはお

01.今回調査区間位置図

もしろい。

車内の広告には在阪私鉄、バスのこれまで使用してきた多くのカードがお役御免となり、その払い戻しの案内が貼られている。ラガー、らくやん、レインボーカードはよく利用したのだが、乗車以外の利用が出来ないので淘汰されてしまった。時代に合わない古い物は無くなる運命にある。



02.スロット KANSAI のカードがこんなに有ったのだ



03.ロープウェイ前バス停の名前が違うぞ

10時31分に着き55分発の金剛山ロープウェイ前行き南海バスに乗る。座席が全て埋まる乗客で盛況である。バスは起伏の多い道を登り金剛山の山懐に入っていく。途中の名刹「観心寺」でおばさん達が降りて幾分軽くなった。それまでの喘ぎ喘ぎの走りが軽やかになった。

終点の「金剛山ロープウェイ」に10分遅れで到着。ここには南海と金剛の二つのバス会社のバス停があるが、その名前が違うぞ。金剛バスの方は「千早ロープウェイ」としており、バス会社名を考えると敢えて金剛山と言うのはおこがましいのだろう。ロープウェイ前と言いながら実物はまだ坂道の先に有るこのロープウェイは日本唯一の村営で、かつて千早村時代に乘った覚えがある。

「千早川」は金剛山(H=1,125m)の南山腹(H=930m)から流れる大阪府の川の最高地点から流れ出す。山の頂上は大阪府には無く奈良県に有る。何かいわくが有りそうだ。府道の両側の細長い駐車場には多くの車が並んでいる。昨日は雨、明日も雨で今日は快晴。登るのなら今日でしょう！



04.平日なのに車がイッパイ

標高 680m から逆逆行を開始する。久しぶりの高度である。2車線の府道 705 号の坂道をホイホイと下っていく。府道には 200m 毎に距離標が立ち、数値を 5 で割った数字が 100m 単位の起点からの距離になる。例えば 525 とあれば 5 で割ると 105 となり、距離は 10.5km となる。これは高速道路でも建設時に 20m 置きに中心杭を設置した名残であろう。道路の設計は先ず道路の中心を決め、その線沿いの縦断図と 20m 置きの横断図を作成し、平面、縦断、横断各図を基に道路、橋、盛土、切土、土留め工作物を設計し 20m 置きに必要な幅を決め幅杭を打ち、必要用地を決め地権者と用地買収交渉を行う。

1.5km ほど歩いて来ると溪流沿いに大規模な養魚場が現れる。その規模は半端で無い！主に鱒を養殖しているようでバス停名にもなっている。最後にはプールのような大きな釣り堀が現れ数名の釣り人が楽しんでいる。歩くのが好きな当方は池や川でじっとしているのはまっぴら御免である。



05.大規模な鱒養殖場が



06.川は肩身が狭いよー



07.最後に大きな釣り堀が

細長い鱒養殖場を過ぎると千早集落に入る。川を挟んで多くの家が並び、右岸側の家には家ごとに橋が架かり、15も延々と続く。岡山の砂川、里見川の上流部以来の私道橋の多さである道路は1車線の狭い道なのでバスや金剛山に向かう車は遥か上のバイパスを通っている。こんもりとした山は「楠木正成」が鎌倉の大軍勢を打ち破った千早城址である。子供の時に読んだ古戦場である。守るに良し、攻めるに難し地形である。北、西、南に深い谷，東は金剛山に連なる山並みである。



08.川沿いに千早集落が



09.各家ごとに橋が有る



10.あの山は千早城址だ

集落が尽きると登り道となり山すそを降りてきた府道に合流する。合流点から少し進むと府道の分流点に着く。左に曲がりトンネルを進むと河内長野、右に進むと千早川沿いの府道で富田林に向かう。バスがここで袂を分かť分岐点だ。当方は当然右に向かう。



11.二つのバス路線はここで別れる

道は下る一方であるが川は遥か下を流れ姿は見えない。深い谷間を足取り軽く進んでいると右足の膝の調子がおかしい。昨日から右足の腰の関節部に違和感が有り、しばらく歩くと緩くなっていたが、延々と続く下り坂と腰の不調の影響が膝に負担をかけたのかもしれない。ギアを落としゆっくりと歩くことにする。だいぶん下ってくると木々の間から再度こんもりとした姿の山が現れる今度は「上赤阪城址」の山である。こちらの山の方が攻めやすそうな地形である。

やがて「上東阪」集落に着く。「アズマサカ」と読むのである。道の下に独特の形をした屋根を持つ民家が建っている。ここまで2km、全く家の無い区間

で大阪府にもこんな所が有るのだ。



12.今度は「上赤阪城址」の山が



13.独特の屋根が際立つ東阪の民家

ポツポツと人家がある府道を進むと久しぶりの橋、それも村道の立派な橋が現れる。橋の向こうの袂に大きな移動販売車が停まり客を待っている。四国でよく見かけた移動販売車であるが、ここのは生協が運営し、車は軽ではなく大きい。さすが村だなー。



14.大阪にも移動巡回販売車が有るのだ

膝はますます痛くなり「千早小前」バス停小屋で暫し休憩し昼のサンドを摂る。10分ほど休憩し歩きを再開する。足を引きずりながら進み、次の橋は府道から離れた下の方に有る。必死の覚悟で橋に向かいUターンして府道に戻る。1kmほど先のバイパスの橋が最後の橋になるのでそこまでは頑張ろうと歩く。

やがてその橋（千早大橋）が現れホットする。旧道と新道が一緒になり、西の丘陵地からも道が一緒になる交差点の北側に待望のバス停がある。「消防分署前」なるバス停名で名前の通り消防署が有る。建物は和風と洋風が混じった形で面白い。

何故分署と言うのか調べると、業務を富田林市に村が委託しているので富田林市消防の分署になるようだ。前回歩いた「太子町」、「河南町」も消防・救

急業務を富田林市に委託しているようで、小さな町村にとっては良い方式である。河内長野市では山を越えていくことになるが、富田林なら川を下って行けば良いのでこちらの方が合理的である。金剛バスの路線網と合致するぞ。

この先橋が無いのでここから帰路につくことにする。この辺りは旧千早村の北端部ですぐ先は旧赤阪村である。役場と警察は旧赤阪村にあるが消防は旧千早村に、しかもすぐ西は富田林市が大きく南に張り出した地域、上手く配分したものだ。市は建物を造る必要が無く両者ウイン、ウインだ。



15.和洋折衷の消防分署



16.消防分署前バス停に有った写真

本日の歩行距離：9.8km。調査した橋の数：26。

総歩行距離：10,315.0km。総調査橋数：12,903。

使用した1/25,000地形図：「五條」（和歌山6号-2）、「御所」（和歌山6号-1）、「富田林」（和歌山6号-3）